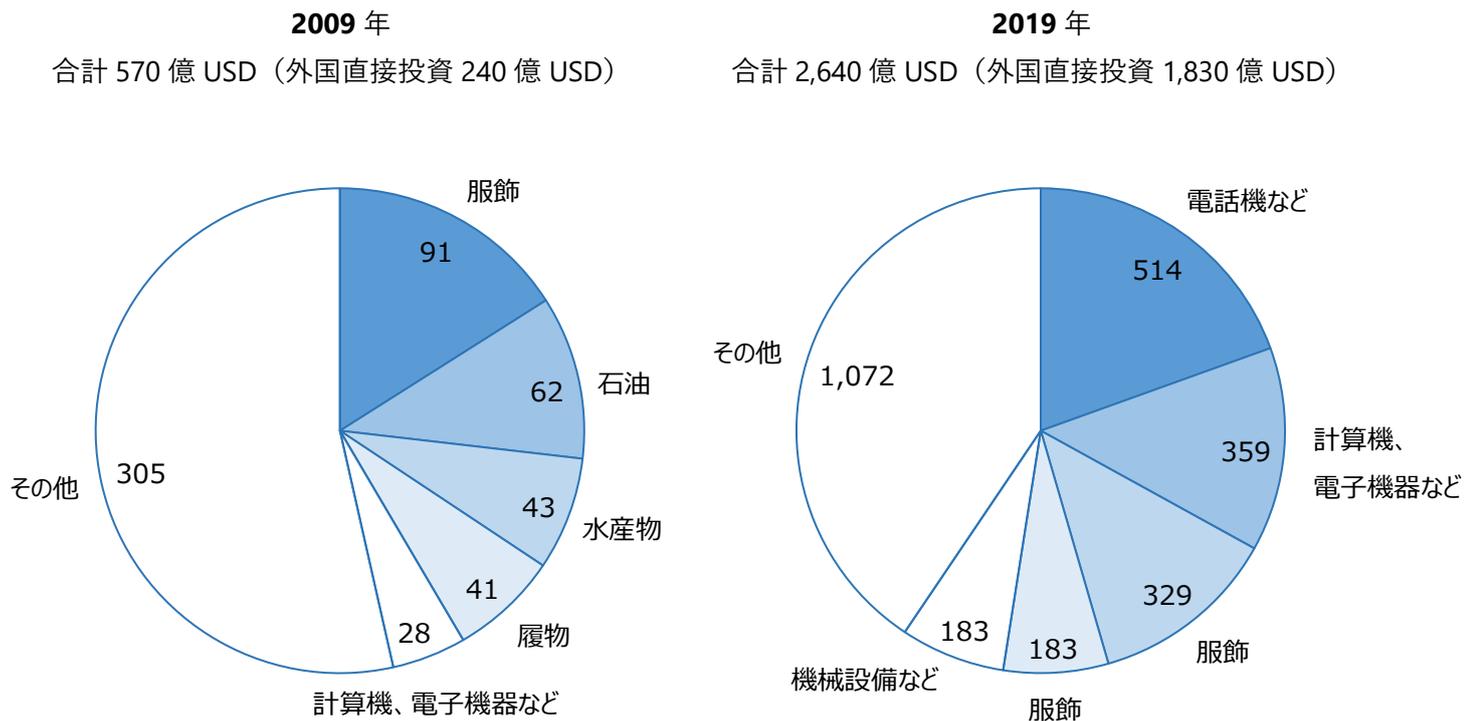


ベトナム加工産業の進展、コロナ下の明暗

2010年代、中国国内での人件費高騰や米中摩擦の影響により「チャイナ+1」の流れが加速し、ベトナムへの外資移転が進んだ。特に伸びたのが電子電気産業で、2019年のベトナム輸出の19.5%を「電話機など」、13.6%を「計算機、電子機器など」が占め、2009年の服飾、1次産品から10年で様変わりした。それを担ったのが外資企業で、輸出に占める割合は2009年の42%から2019年には69%まで増えた。国内企業も33億USDから81億USDと2倍増以上となり、育っている。

ベトナムの輸出主要5品目

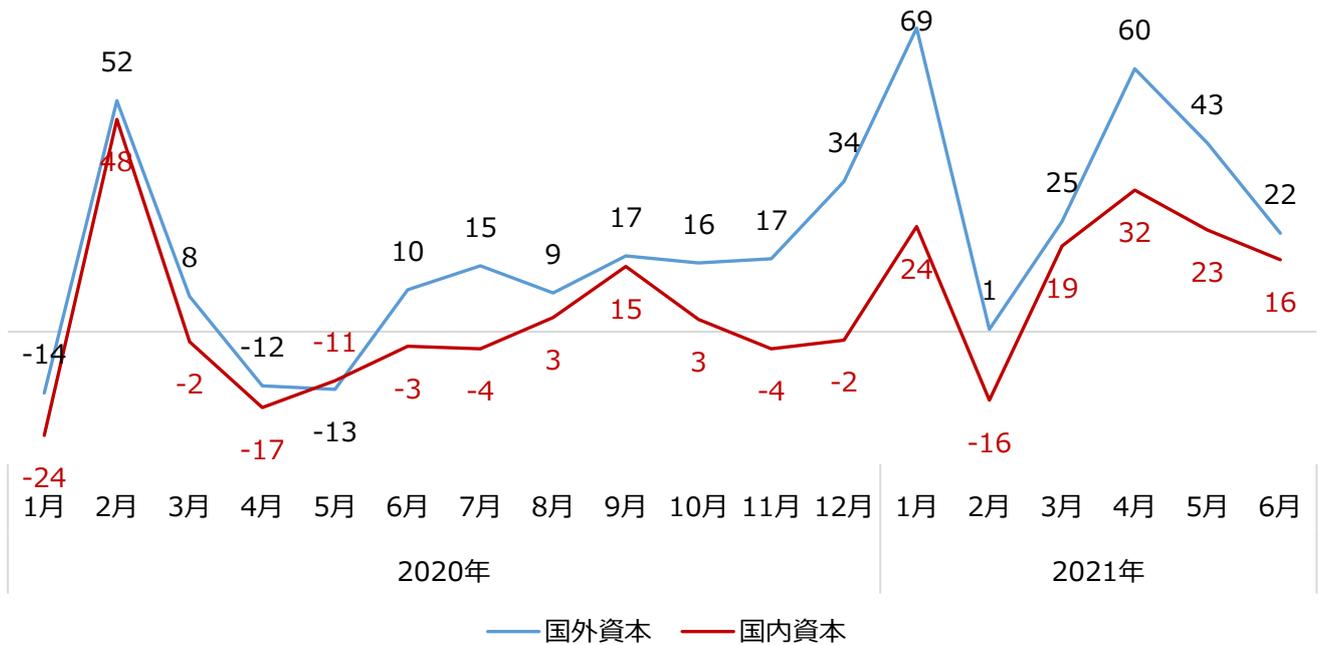


資料：JETRO

新型コロナウイルスの影響

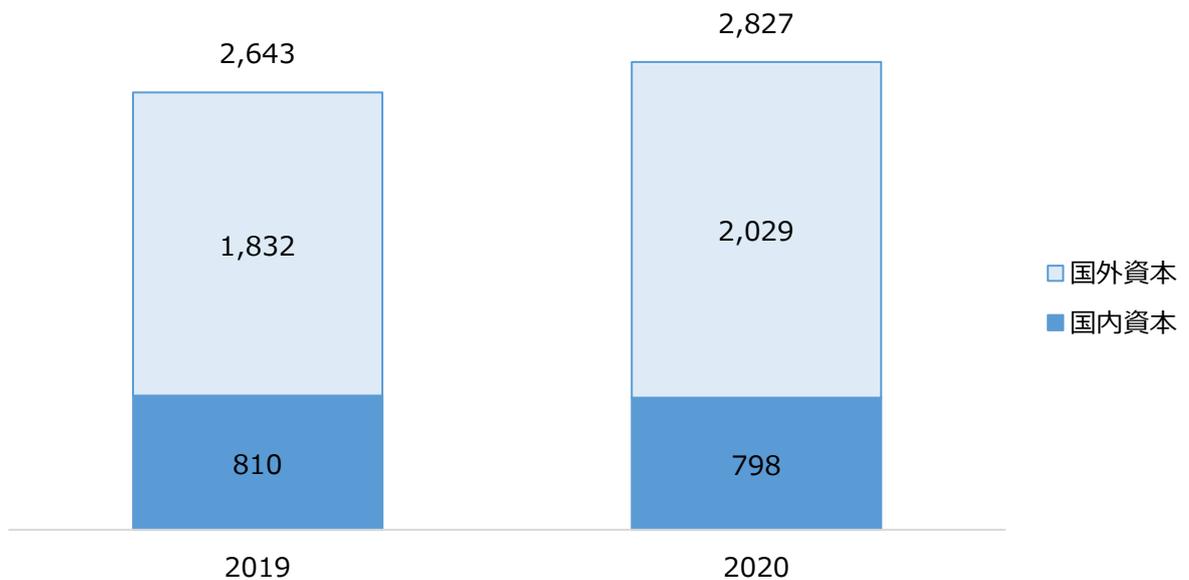
次に、1年半の輸出成長率からCOVID-19の影響を見ると、2020年4~5月の大きな落ち込み後は外資が持ち直した一方、国内企業はもたつき、明暗が分かれた。2020年全体では前年比7%増となったが、国内資本だけ見るとマイナスである。外資が伸びたのは、世界的なりもトワークの普及によりコンピュータや電子機器などに特需が生まれたことが背景にあるが、国内企業の不振は人手に頼る仕事のやり方が影響していそうだ。

輸出成長率（前年同月比：％）



資料：ベトナム税関総局（GDC）

資本別輸出額（億 USD）



資料：ベトナム税関総局（GDC）

さらに、2021年7月にCOVID-19第4波がベトナムを襲うと、多くの工場が約3か月間の操業停止を余儀なくされ、多くの地方労働者が感染不安もあり帰省した。10月になり感染者が減少し、操業再開に向かうなか、省間移動の禁止が労働者の都市部帰還を妨げている。VNEXPRESS5によると、30.6%の工場が労働力不足に陥り、特に南部での影響が大きい。業界別に見ると、革製品52%、服飾49%、電気設備44%、繊維39.5%に対し、コンピュータ・光学機器は5.6%に留まる。自動化の進展する業界と人手に頼り労働力の変動に脆弱な業界が明暗を分けたが、対応するように前者に外資、後者に内資が多い。

すなわち、ベトナムが電気電子産業を中心に外資誘致に成功し、輸出を伸ばしたところでCOVID-19が労働集

約的な産業構造、仕事のやり方により強く掣肘することで、この傾向がさらに加速し、2021年前半までの輸出に占める外資割合の増加継続に繋がっていると考えられる。一方、国内企業が新たな産業構造のなかで一定の位置を見出していくことも、ベトナムの長期的な成長に向けては必要なことである。2022年のCOVID-19関連の各種制限解除に向けて世界中が動いているなか、供給体制の復元、強化を早期に実現することが、その位置取りに向けた第一歩になると思われる。

参考資料：

1. https://www.jetro.go.jp/view_interface.php?blockId=31374246
2. https://www.jetro.go.jp/ext_images/world/asia/vn/data/vn_overview201608.pdf
3. https://www.jetro.go.jp/ext_images/Reports/01/1057c5cfeec3a1ee/20190037.pdf
4. <https://www.customs.gov.vn/Lists/EnglishStatistics/ScheduledData.aspx?Group=Statistical%20data&language=en-US>
5. <https://e.vnexpress.net/news/business/economy/hcmc-companies-hit-by-labor-shortage-4372734.html>
6. <https://www.viet-jo.com/news/tourism/211007170048.html>